

# 令和2年度 家庭教育オピニオンリーダー研修① 実施報告

実施日：令和2年8月26日（水）

新型コロナウイルス感染防止のため、「3密」回避対策、受付時の健康チェック及び検温等を行い、実施しました。

- 開講式
- 説明「とちぎの家庭教育支援施策と家庭教育オピニオンリーダー」  
栃木県教育委員会事務局生涯学習課 社会教育主事 針谷 英子



家庭教育を取り巻く現状や課題、家庭教育支援の内容を踏まえ、これから県として家庭教育支援施策をどのように進めていくかについて説明がありました。

後半には、家庭教育オピニオンリーダーとその養成についての説明、研修修了後の受講者の活躍の様子などの話がありました。当研修は昭和62年に始まり、その後研修修了者が「栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会」を組織し、各市町で家庭教育を支援する様々な活動を継続して行っています。地域に根ざした家庭教育支援を実施していることを知り、受講者は研修に対する意欲が高まったようです。

- 演習「関係づくりを促すワークの体験」 総合教育センター職員

受講者はいくつかのアイスブレイクに関する映像を視聴し、アイスブレイクの趣旨や方法などについて聞きました。次に、受講者全員からの自己紹介を行いました。互いに当研修へ参加した理由や意気込みなどを聞き、受講者同士を理解するきっかけとなりました。



- 施設見学 栃木県総合教育センターボランティアの会

センター内の各施設をセンターボランティアの会の方が案内しました。当研修で使用する研修室などについて、丁寧な説明をしながらの案内であり、受講者は施設全体の理解を深めることができました。また、図書資料室と学習情報センターでは各担当職員からの説明があり、それぞれの施設についての設置目的や利用方法などを理解しました。



- 講話「子育て家庭の現状と課題、その支援に向けて」

宇都宮共和大学子ども生活学部 特任教授 牧野 カツコ 氏



日本の子育て環境の様々な現状として、少子化や小規模化する家族に関する

話がありました。また、家族をめぐる諸問題として、家族の中の暴力、子どもの不登校と引きこもり、家族のコミュニケーション不足が母親の子育て不安の一因となることなど、牧野先生の今までの研究で得られた成果や諸外国と日本を比較した内容もあり、受講者は様々な子育て支援に込められた意図や内容などについて理解を深めることができました。

講話の最後に、みんなで子どもを育てる社会の実現に向けて、家庭教育オピニオンリーダーのような活動が重要であり社会の希望でもあるという言葉に、受講者が大きく頷いていました。



## ☆受講者の声（アンケートから）

- ・子育てをしている方への支援の方法について様々なことが考えられているし、それを実行したいと思っている方もいるので、その結果が対象者にきちんとつながる仕組みができると良いと思いました。
- ・父親の子育て参加の重要性や地域社会で子どもを育てていくことがこれから必要になっていくと改めて思いました。
- ・子育てに困っていない、子育てが楽しいと感じている方にもスポットを当て、その方が困ることなく、そのまま過ごせることも重要だと思いました。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで  
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp